

企画・原案・制作 伸童舎ワースプロジェクト

巨大ロボットファンタジーグラフィックブック

聖王刻



ALLAHKSYEA
聖王都編





聖刻

1092

● 聖刻絵巻 天然色版

幡池裕行氏による、
「聖刻1092」シリーズのカラーイラストを再録する。

● 聖刻列伝 人物の巻

「聖刻1092」シリーズに登場するキャラクターを書き下ろしイラストで紹介する。

● 聖刻列伝 操兵の巻

「聖刻1092」シリーズに登場する操兵を紹介する。

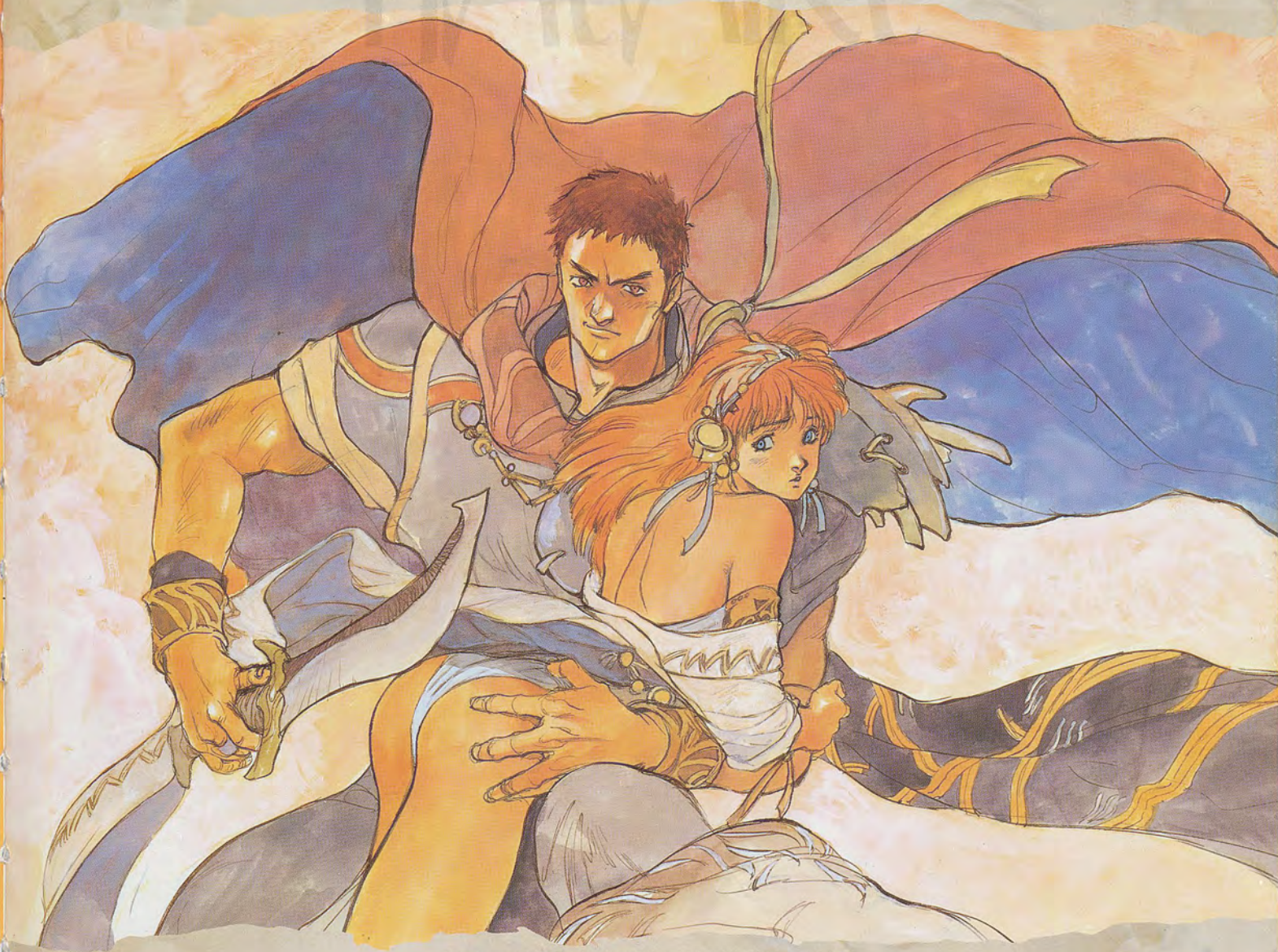
● 聖刻ノ情景

「聖刻1092」の物語が展開する世界を書き下ろしの情景イラストで紹介する。

● 聖刻絵巻 奇贈絵版

「聖刻1092」に携わるスタッフの友人、知人より寄贈された玉稿。刮目して見よ！

幡池裕行・聖刻絵巻 天然色版



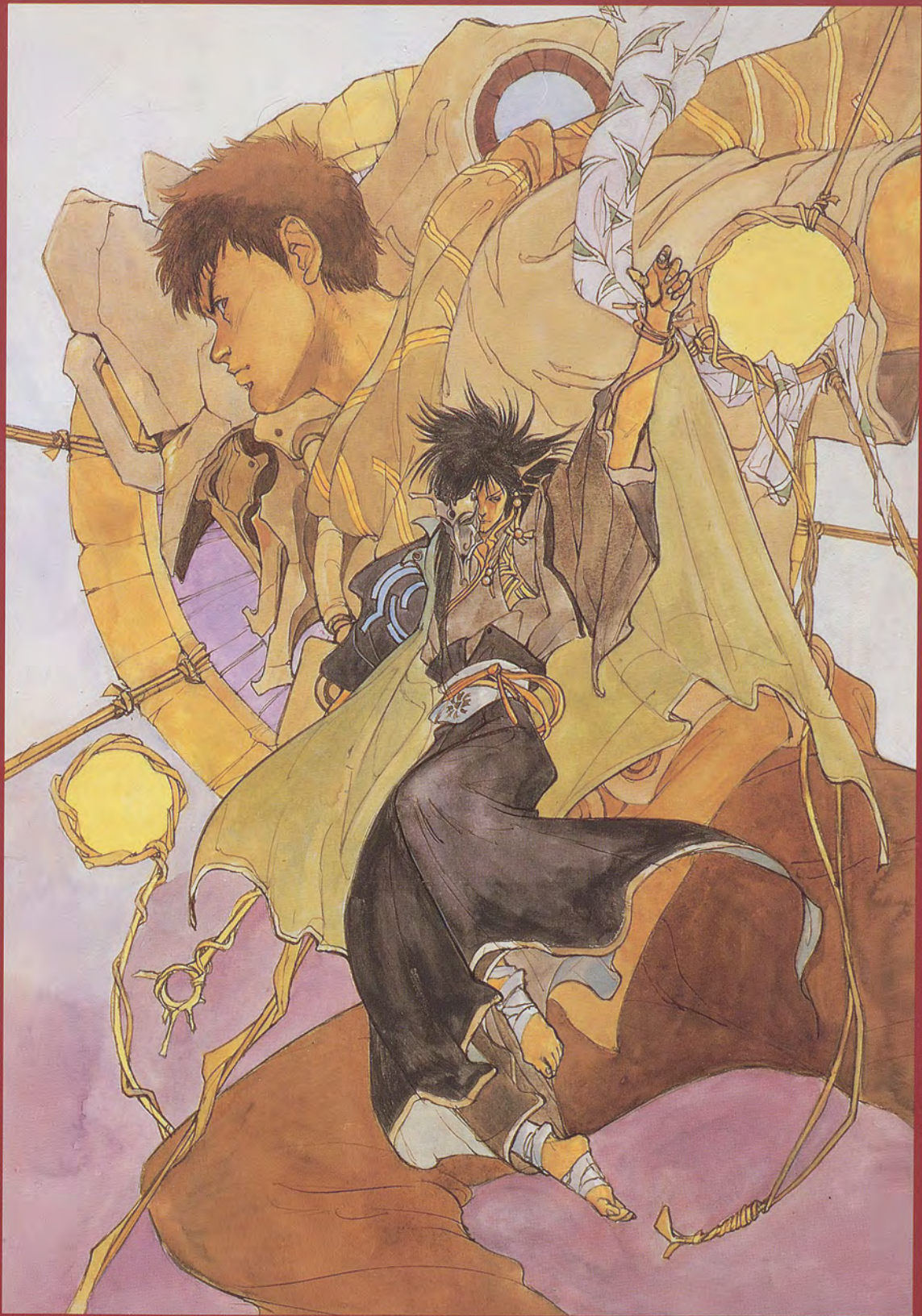
●カセット文庫「辺境の風雲児」パッケージイラスト（縦370mm×横540mm）







●聖刻1092[3]「囚われの聖女王」表紙イラスト（縦380mm×横270mm）



● 聖刻1092回「黒衣の練法師」表紙イラスト（縦465mm×横310mm）

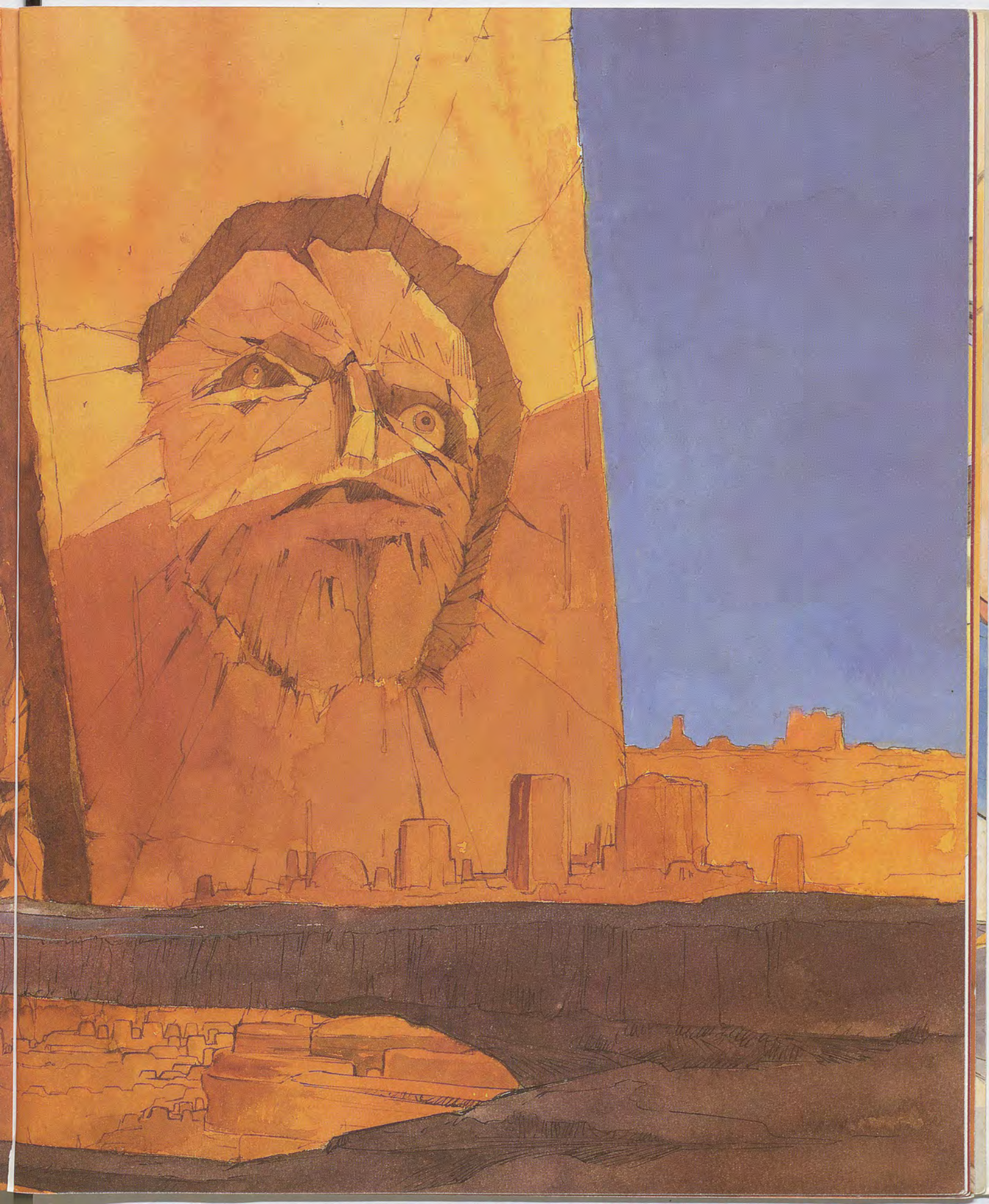


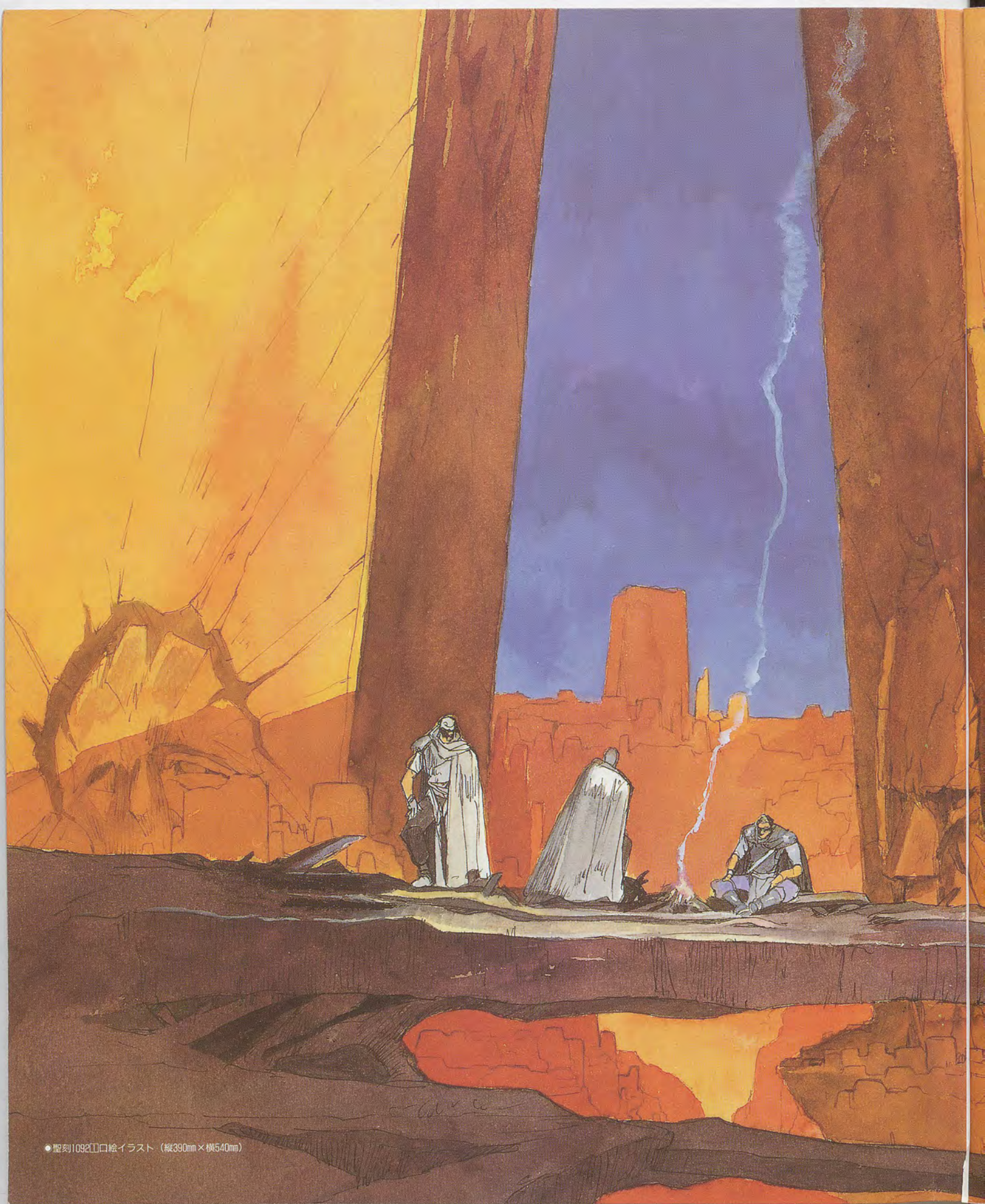
●聖刻1092[5]「雷光の秘操兵」表紙イラスト（縦540mm×横380mm）





●聖刻1092□□絵イラスト (縦545mm×横395mm)







WARES
ILLUSTRATIONS
HIROYUKI
HATAIRE

幡
池
裕
行
・
聖
刻
絵
巻
天
然
色
版



CHARACTER

COLLECTION

伝

フェン

聖刻の物語はこの男を中心に展開する。ラマス教の寺院で修行する僧侶拳士。呑気な顔の奥底に不屈の闘志を秘める。父の形見である《白き操兵》ニキ・ヴァシュマールを駆り、深淵たる聖刻の神秘と謎に挑む。

聖刻に見出されし

白き風の戦士



物

編

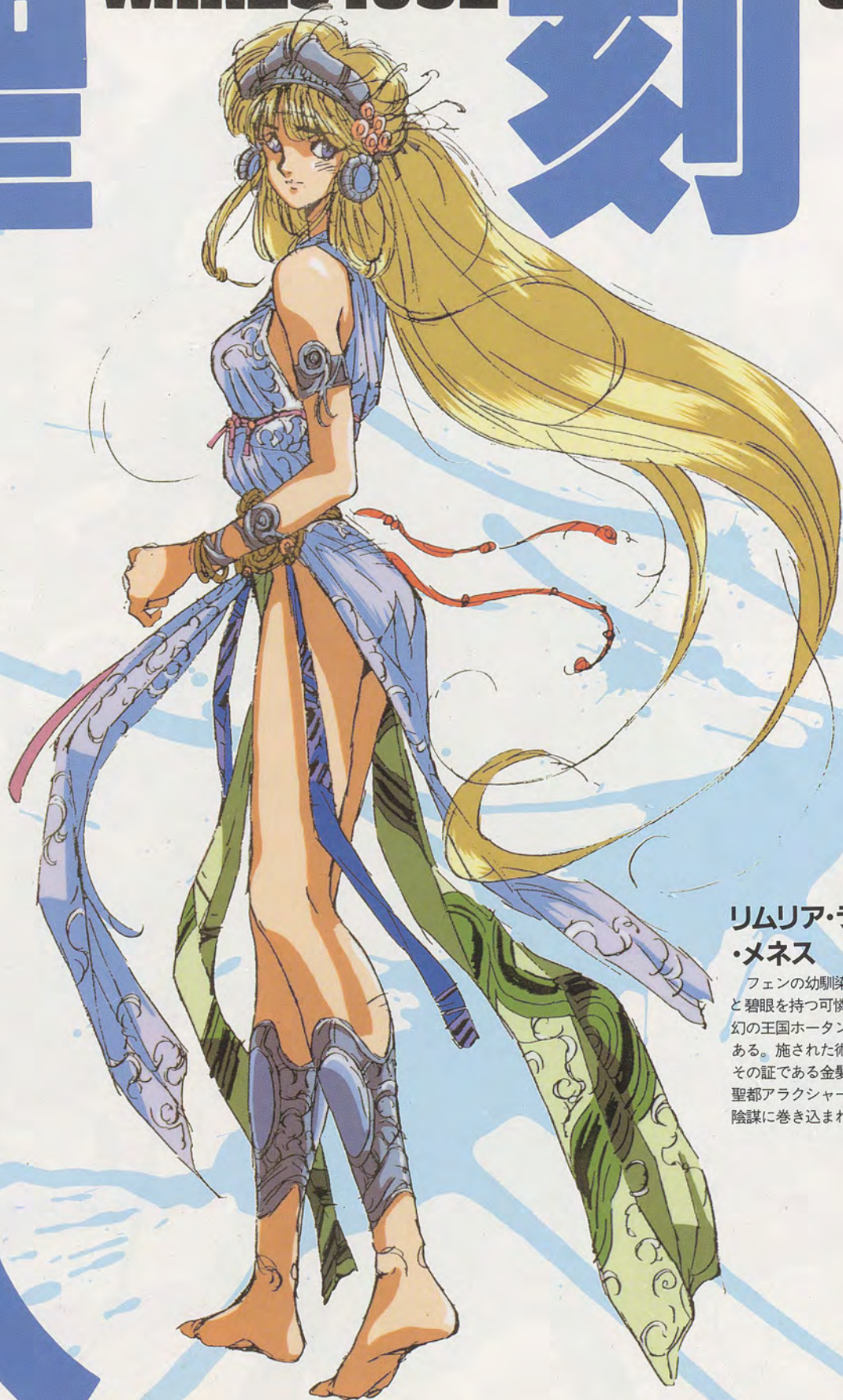
WARES 1092

CHARAC

聖

刻

悲劇の王国の忘れ形見

**リムリア・ラフト
・メネス**

フェンの幼馴染み。栗色の髪と碧眼を持つ可憐な少女。実は、幻の王国ホータン王朝の末裔である。施された術がとけると、その証である金髪があらわれる。聖都アラクシャー復活のための陰謀に巻き込まれる。

人

物

クリシュナ・ラプトゥ

誇り高い弧高の騎士。長い銀髪
の女性的な風貌ながら、細剣
の使い手で「銀の貴公子」の異
名をとる美剣士。輝く機体を誇
る狩猟機アビ・ルーバの操手で
ある。知略、精神力ともに優れ
たものを持つ。



銀の閃光を煌かせる剣士

交易路一番の 元気少女



ジュレ・ミイ

交易路一の占い師を自称している。どんな辛い状況にもめげずに頑張る。大人びた口調でまわりの人間を翻弄するが、まだまだ幼さは隠せない。普通の人間にはない、どこか謎めいた雰囲気を持っている。

ガルン・ストラ

謹厳実直な性格の聖騎士。まじめすぎる性格が災いしているところもある。悪辣な練法師の陰謀に立ち向かう。赤銅の機体の豪傑兵バラシュ・バラーハを愛機とする。秘剣、岩斬剣の使い手でもある。

激しい気性の若き聖騎士



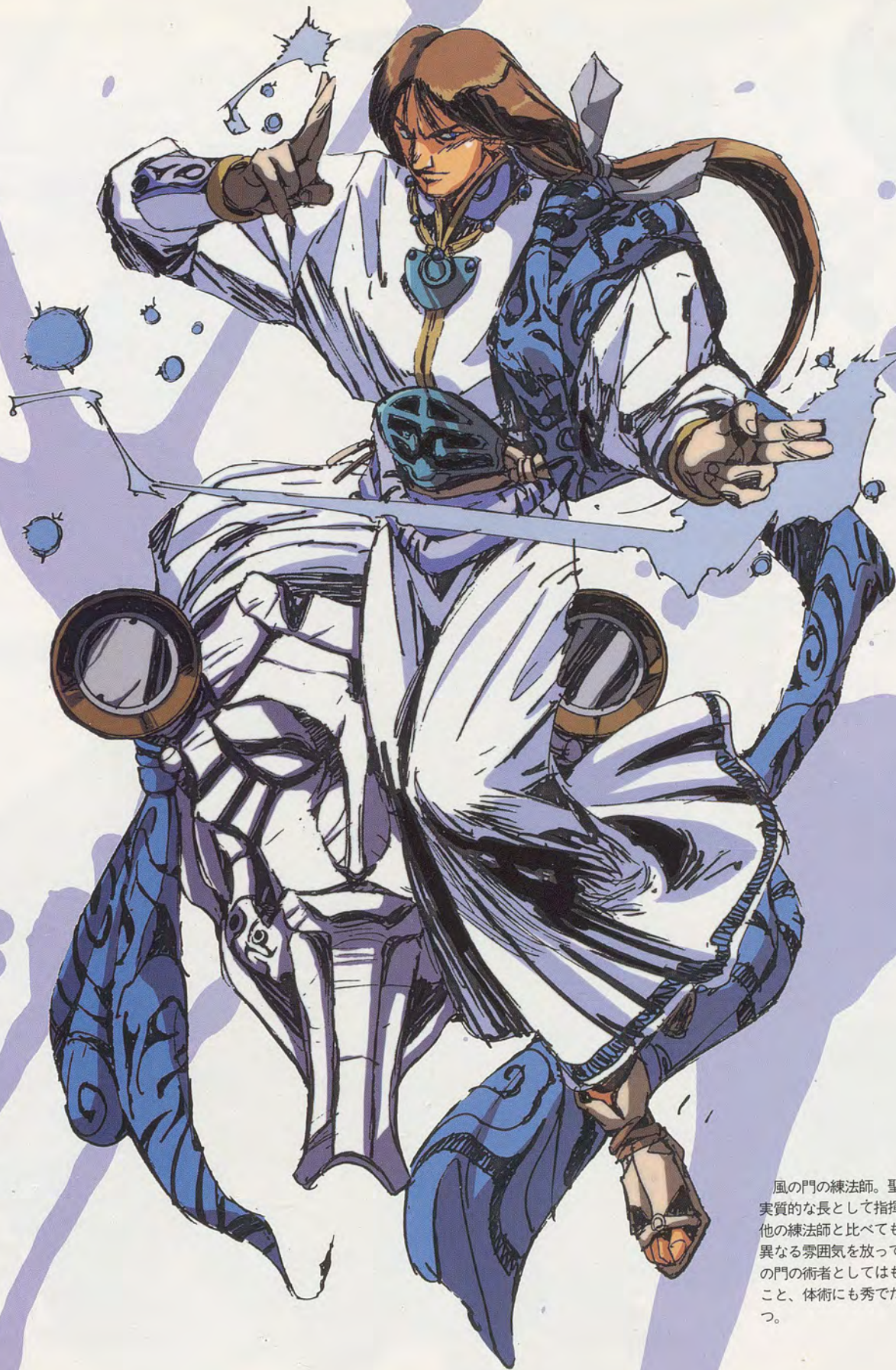
荒野を彷徨う自由な戦士



イル・カタム

遊牧民、ラウ族の若き戦士長。部族とともに馬を率いて、常に荒野、草原をさすらっている。騎馬の戦士として勇猛果敢さはあたりに鳴り響いている。どんな強大な相手であろうと、けっしてひるまず立ち向かう。

忌まわしき風をまとう練法師



ソマ

風の門の練法師。聖華八門の実質的な長として指揮をとる。他の練法師と比べても、なにか異なる雰囲気を持っている。風の門の術者としてはもちろんのこと、体術にも秀でたものを持つ。



妖艶なる月の女神

カルラ

月の門の練法師。聖華八門唯一の女性術者。月の光を糧に、時と闇を支配し人の心を欺く影を操る。幾星霜を経た高位術者であるが、その姿は妖艶な美女のものだ。心の奥底に、ソマへの一途な愛がひそんでいる。

鬼を慕う若き狼



ガシュガル・メヒム

傭兵騎士団グリーンワルズを率いる『蒼狼鬼』の異名を持った百戦錬磨の武者。どんな卑劣な行為をも厭わぬ、比類のない戦い方は、その名を知るものにとって恐怖以外のなにものでもない。

凶悪無比な蒼狼鬼

ゼナム

グリーンワルズにおいて、ガシュガルの副官を務める若武者。荒くれ者の集団の中で異彩を放つ。子供の頃から自分を鍛え育ててくれたガシュガルのことを親のごとく慕い、全幅の信頼をおいている。

悪しき力の象徴たる黒の大師

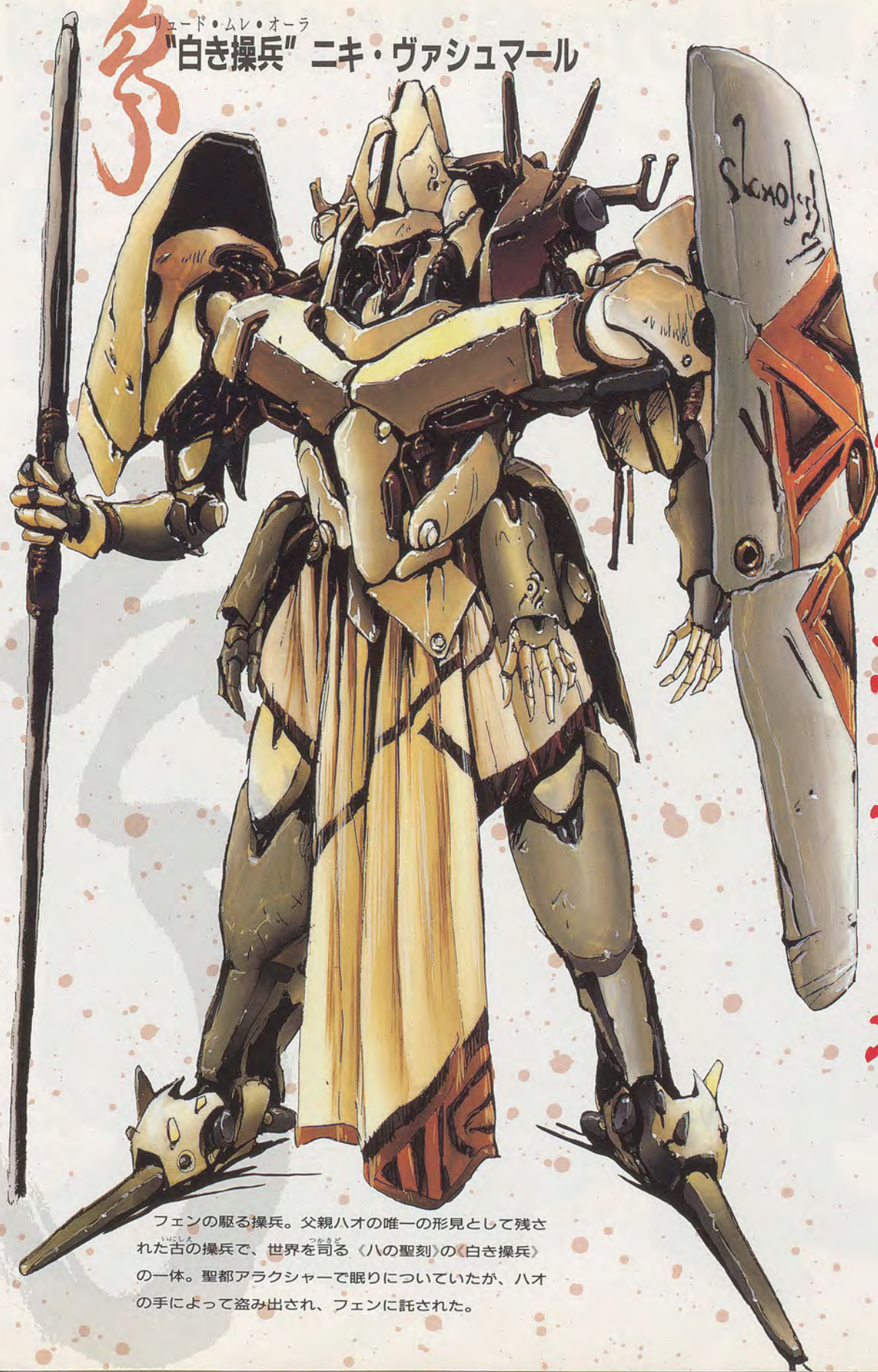
ダム・ダーラ

東方聖刻教会の闇の組織《聖華八門》を束ねる謎の人物。はかりしれない力を操る恐怖の練法師である。“黒き操兵”の仮面に魅せられ、その使徒となる。世界を《黒》に染め上げるためにさまざまな陰謀を張り巡らせる。



聖刻列伝
操兵の巻

リュード・ムレ・オーラ
"白き操兵" ニキ・ヴァシュマール



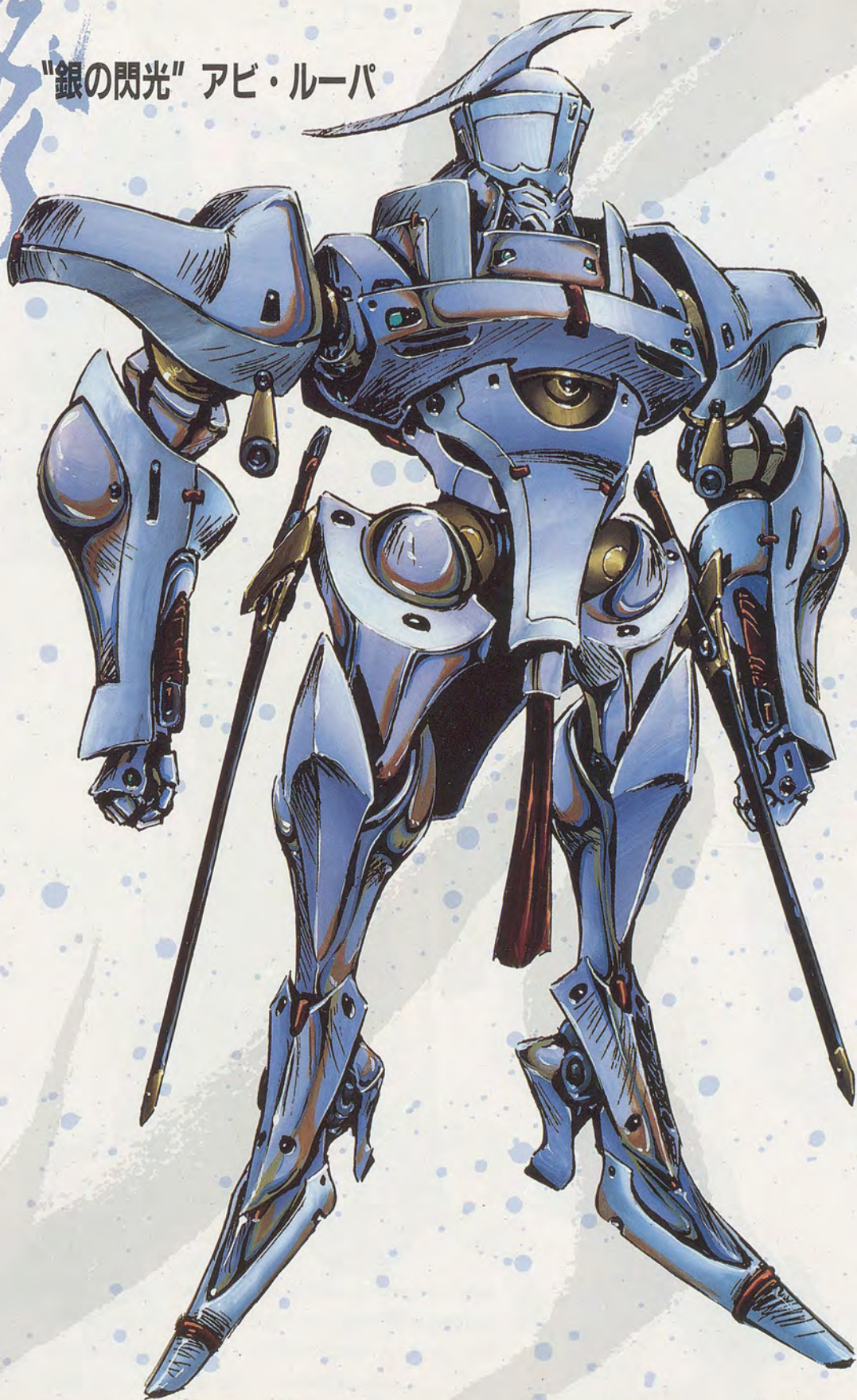
フェンの駆る操兵。父親ハオの唯一の形見として残された古の操兵で、世界を司る《ハの聖刻》の《白き操兵》の一体。聖都アラクシャーで眠りについていたが、ハオの手によって盗み出され、フェンに託された。

「赤銅の武者」 パラシユ・バラーハ



東方聖刻教会の聖騎士、ガルン・ストラの駆る赤銅の操兵。聖刻教会先々代法皇からストラ家が拝領した機体で、ガルン、父親、祖父、曾祖父と四代にわたって使用されたストラ家の象徴たる操兵。

"銀の閃光" アビ・ルーパ



「銀の貴公子」の異名をとるクリシュナ・ラプトウの愛機。中原では珍しい西方製の操兵で、クリシュナの祖父が大枚をはたいて取り寄せた機体。練法の効力がある程度無力化する、鏡面装甲を装備した最新鋭機である。

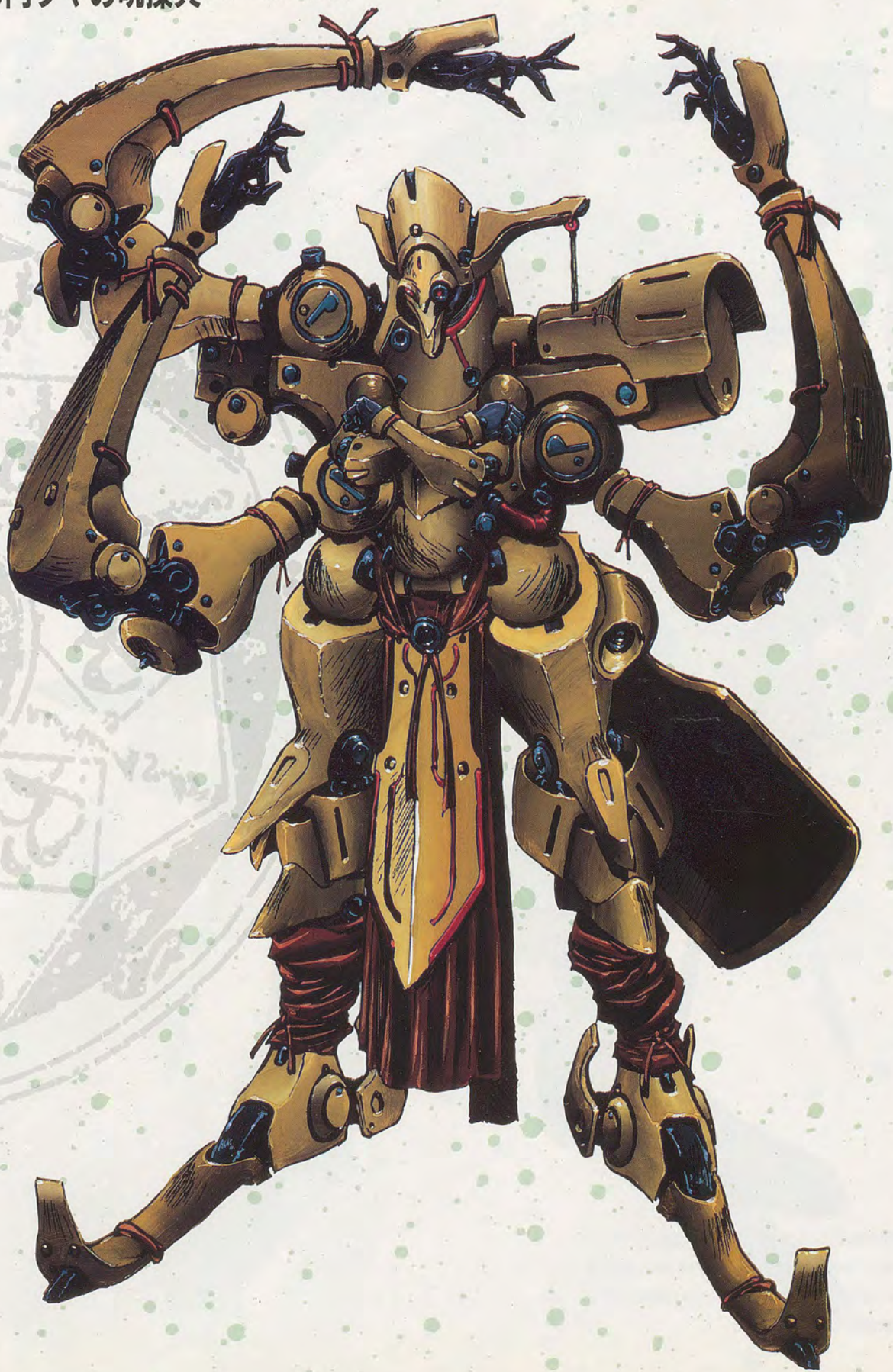


“蒼狼鬼” ガリオン・シーカ

恐怖の傭兵集団グリーンワルズの団長、ガシュガル・メヒムの手足ともいべき操兵。ガシュガルが、今はなき東方の小国、ヒゼキアの王都警備隊にいた時期に使用していたものを改造した機体である。

フェンレイ

風の門ソマの呪操兵フェノ・ベルガ・ラハン

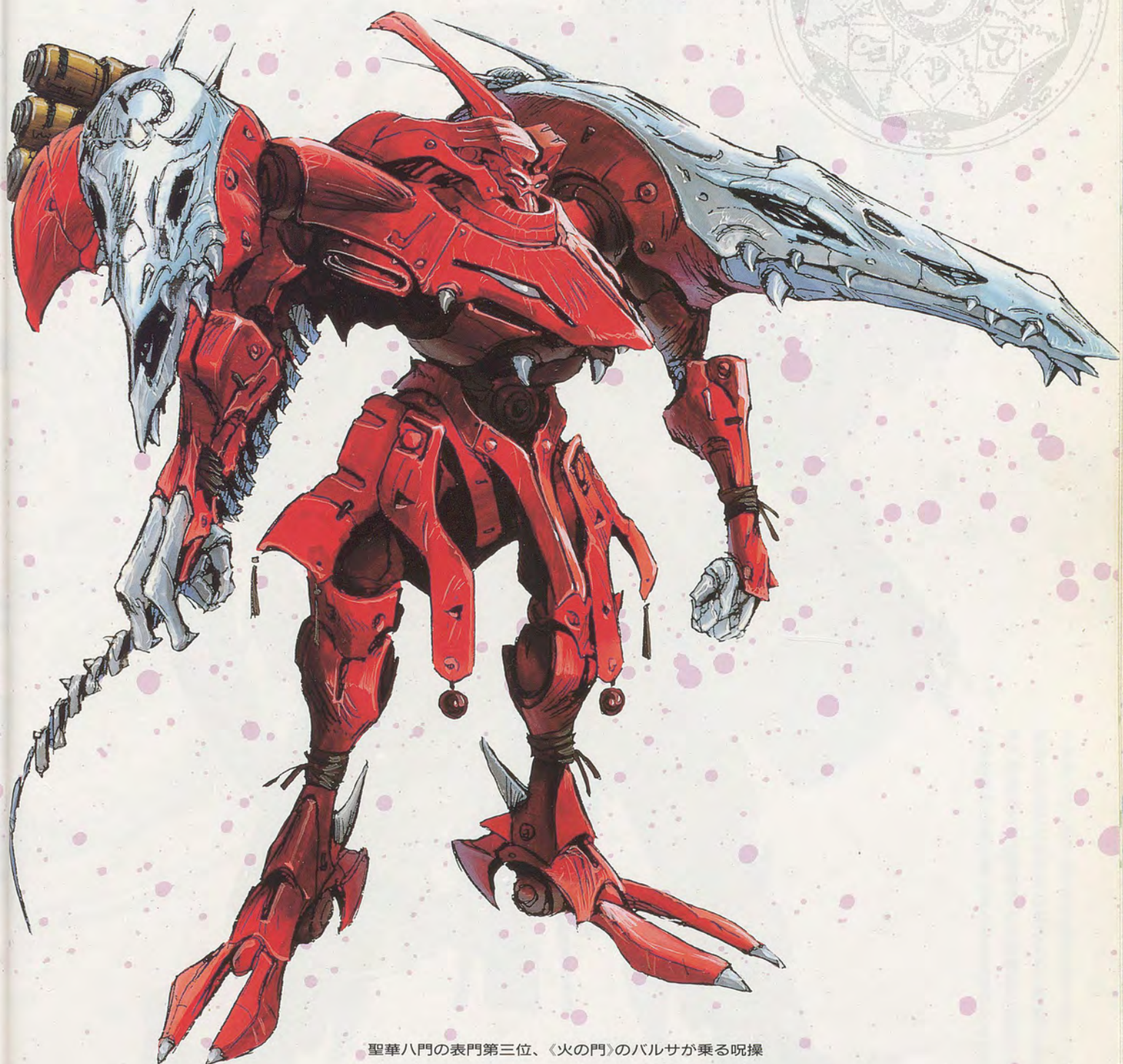


聖華八門の裏門第二位、《風の門》のソマの駆る呪操兵。三本の剛腕と結印用の二本の腕をもつ異形の操兵で、ソマの練法を増幅し発動させる。風を触媒にし、わずかでも風があれば、あらゆる気象を操作することができる。



聖華八門の裏門第一位、(月の門)のカルラの乗る呪操兵。月を象徴する曲線をもった操兵で、カルラの練法を増幅し発動させる。月の満ち欠けと位置にあわせて様々なまやかし、閏、時を司る術を使用する。

フォンハイ
フォノ・エンソーム・イフキ 火の門バルサの呪操兵



聖華八門の表門第三位、《火の門》のバルサが乗る呪操兵。両肩に龍の頭蓋をもっており、バルサの練法を増幅し発動させる。両肩の頭蓋後方についでいる呪封筒には、数々の爆炎の練法が封じ込められている。

シュノ・アグル・テイケーロ
水の門シーターの呪操兵



聖華八門の裏門第三位、《水の門》のシーターの操る呪操兵。水晶をイメージさせるこの機体は、シーターの練法を増幅し発動させる。水を触媒とし、川辺や湖、海などでは絶大な力を発揮する操兵である。



金の門^{キンガイ}ガルダの呪操兵
キノ・ザウル・ラギユラ

聖華八門の表門第二位、《金の門》のガルダが駆る呪操兵。操兵としては珍しく変形機能を持ち合わせており、普段は敏捷性が高くパワーのある獣型をしているが、高位練法を用いるときは人型となる。

木の門ラージャの呪操兵

ムウチ
ムウノ・ロ・グウラ



聖華八門の表門第四位、《木の門》ラージャが操る呪操兵。背部から伸びる樹操鞭を地面に突き刺し、樹木を操る。粧練によって植物材質で成型された外装は、植物と融合し機体に取り込むことが可能である。

ツ
フ
ア
オ
土の門ダロトの呪操兵
ツ
オ
ノ
マ
ソ
ウ
ケ



聖華八門の裏門第四位、〈土の門〉のダロトが駆る呪操兵。削岩機を思わせる巨大な腕が特徴で、ダロトの練法を増幅し発動させる。土を触媒とするため、行動のほとんどは土中で行われ地上の様子は潜望眼によって探る。



聖華八門の表門第一位、〈陽の門〉のアルバが乗る呪操兵。機体上部の印手は象徴である太陽を現しており、結界内で、光、熱などの太陽の力を自在に駆使する。座っている台座は呪封座といい、巨大な呪封筒の類である。



リユード・ムレ・オーム
“黒き操兵” ハイダル・アナンガ

聖華八門の長、ダム・タラの分身ともいえる黒き秘操兵。『八の聖刻』のうち『白の操兵』ヴァシユマルのものとして変換する能力もっている。

WARES 1092 HYUDE COLLECTION
聖刻列伝操兵の巻



聖刻ノ情景

THE SIGHT OF WARS

ゴナ砂漠

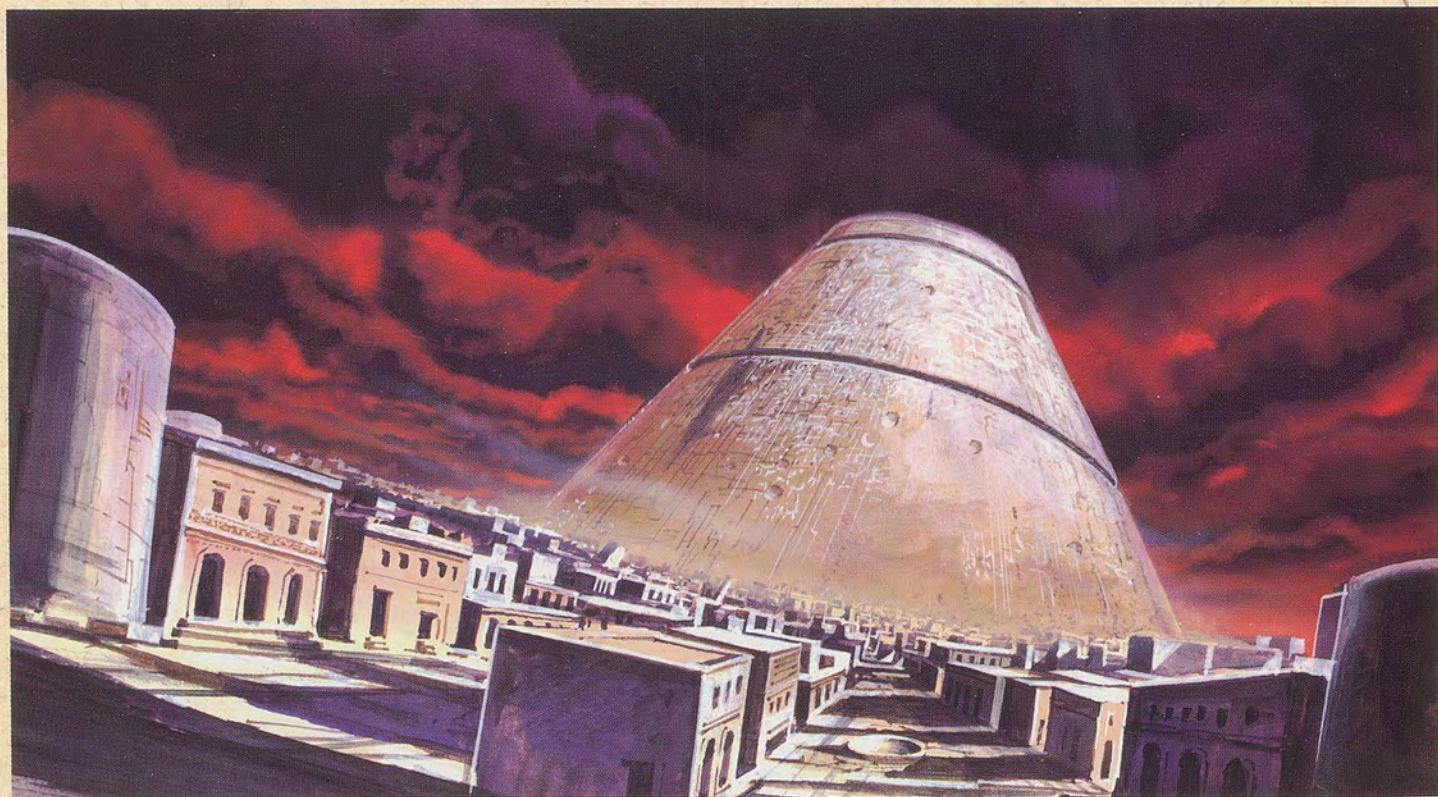


照りつける太陽、果てしなく続く黄砂。ゴナの砂漠は生あるものの存在を拒む。昼は太陽の灼熱の炎が大地を焦がし、夜は冷たい風がすべてを凍てつかせる。ここは、二人の神が支配する地。

ゴナの黄砂を含んだ強風が、陽の到来とともに吹き抜ける。東の地ではわずかな風も、西の地では竜巻となり、地表のものをすべて連れ去ってしまう。

人々はそれを「風魔人の往来」と呼び、畏れ敬った。

聖都アラクシャー



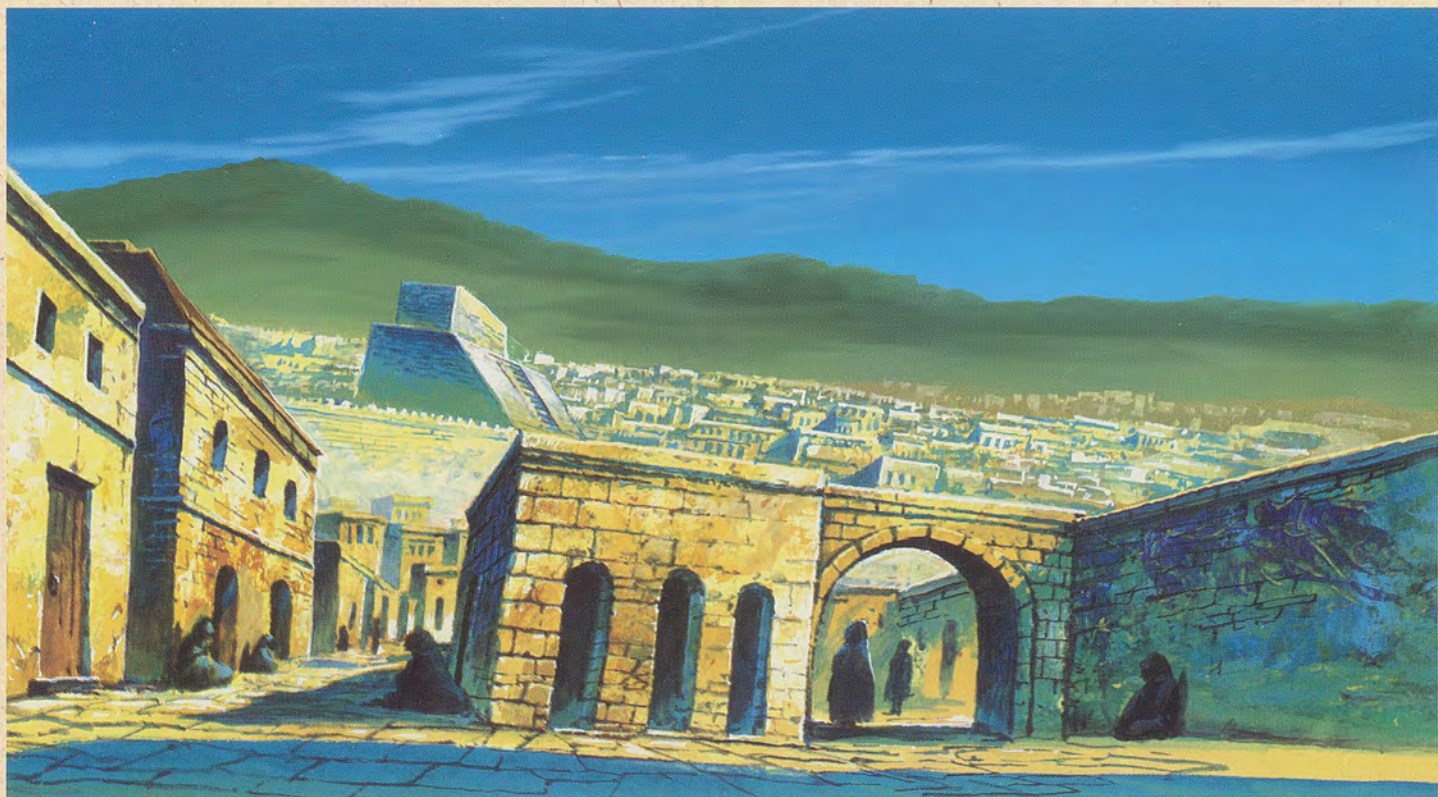
アラクシャー。はるか古
に栄えし《白き王の帝國》
の聖都。

中原でもっとも美しく、
文化の高いこの都は、古の
時代より受け継がれし不思
議な力のなせる薙なのか、
ゴナの黄砂にさらされなが
らも、その葦麗さをえるこ
となし。

その中心に立つは、古の
王の眠りし《白亜の塔》。

その魂が永遠の眠りにつ
いても、幾人もの氏が王の
復活を祈ったという。

ラバザーナ



砂漠の中の唯一の楽園、
オアシス。小さな衆に民が
集い、やがてひとつの街と
なった。

ラバザーナ・オアシスは
そうしてできた砂漠の街の
ひとつで、隊商路からそう
遠くなく、しっかりとした
水源を保っているため、ど
うにか人が住めるようにな
っている。

過酷な砂漠で生きる者た
ちにとって、まさに水は命
の糧であり、この街を取り
囲んだ城壁が、野盗らの襲
撃から水源を守っている。

フェブ・ワン
風の巢



ツンホワン山脈の深い谷間には、《風の巢》と呼ばれる、風がつか所に吹き込む場所がある。

幾度もの風が唸りをあげて重なり合い、やがてひとつの竜巻となりすべてものを容赦なく巻き込み、北の果てへと一瞬にして吹き飛ばすといわれている。

《風読み》たちは、風の声を聞き、風のやすらぐ時を知るといふ。風の向こうに渡るのなら、彼らとともにゆけばよいだろう。

カッチャナラ



北の果て、嚴寒の地アレ
ビスに位置するカッチャナ
ラ山脈。

北の冷たい風が雪をとも
ない吹雪となり、不幸な来
訪者をさらに奥へと誘い込
もうとする。

降り積もった雪が溶けず
に白銀の原野となり、どこ
まで行っても、そこは雪に
閉ざされたまま。ひとたび
迷い込んでしまったら、二
度と生きて戻ることはかな
わない。

寒さと孤独から逃げる手
立ては、どこにもないのだ。

アレビス



北の果てアレビス。万年
雪に覆われた厳寒の地。

その降り積もった雪は照
りつける陽の光をものども
せず、年を経ても溶けるこ
とはなくアレビスの地のほ
んどを覆う大森林ととも
に、白銀の雪原を北の大地
に広げている。

陽の沈みとともに、アレ
ビスの地は闇と冷気の支配
する極限の世界へと変貌し、
生あるものすべてを凍てつ
かせようと、氷魔が闇に包
まれた森をさまようという。

ラマス寺院



中原においてもっとも多くの信徒を抱えるラマス教は、その総本山をダマスタの王都ダバーウアの郊外に構えている。

ラマスの寺院は中原各地に一千ほど置かれているが、どれも豪華な建物ではなく、いたって簡素なつくりのものがほとんどである。

現在のラマス教が確立したのは百五十年前だが、その源流は《白き王の帝國》の時代まで遡るのではないかと、という説もあるという。

宿場町



宿場町、そこは人々の出
会いの場。旅人たちが行き
交い、いつも活気に満ちて
いる。

表通りには様々な地域か
ら訪れた行商人らの天幕が
立ち並び、珍しい物が手に
入ったり、減多に行くこと
のできない土地の話を開け
るのも、宿場町の特長のひ
とつといえる。

《交易路》に沿って旅を
続けると、こういった宿場
町に立ち寄ることが多いだ
ろう。

聖刻絵巻

GUEST
ILLUSTRATIONS

寄贈絵版

中井覺
パラシユ・バラーハ

NCSのコンピュータゲームのグラフィックデザイナーとして活躍中。PCエンジン版「ワース」にも企画ス
タッフとして参加している。



鈴木雅久 操手ミ・アヤカ・ズミ

朝日ソノラマ刊「ARIE」を始めとして、各所で精力的に活躍中のイラストレーター。幡池裕行とは、個人的にも親しい友人関係にある。



GUEST ILLUSTRATIONS

見田竜介 主要人物集合

富士見書房発行月刊ドラゴンマガジン誌上で、「ドラゴンハーフ」を連載中の漫画家。ホビー・ジャパン社発行の月刊PPGマガジンで、ワースプレイド・リフレイのイラストを担当した。

